

---

---

## ■ 第5編 報告書の縦覧について

---

---

### 第1章 報告書の縦覧

#### 1. 縦覧期間

平成25年12月13日（金）から平成26年1月24日（金）

#### 2. 縦覧場所

県庁県民サービスセンター

都市計画課ホームページ

### 第2章 住民等意見書について

#### 1. 意見提出期間

平成25年12月13日（金）から平成26年2月7日（金）

#### 2. 意見について

3件の意見の提出有り

表 5-1 ご意見の要旨とご意見に対する県の考え方

No	分類	ご意見の要旨	ご意見に対する県の考え方
1	4章 (鳥類)	<p>阿波しらすぎ大橋の上部工工事の進捗に伴い、シギ科・チドリ科、ペリカン目、カイツブリ目、カモ目、タカ目、カモメ目の飛翔高度は高くなる傾向がある。</p> <p>また、架橋工事の進行に伴って、橋の部分を通るシギ・チドリが激減している。</p> <p>これらのことから、阿波しらすぎ大橋が少なくともシギ・チドリの通過を遮る大きな障壁として存在していることが読み取れる。</p>	<p>大橋周辺を飛行する鳥類について、飛翔高度の経年変化は、大橋の建設が進むにつれて高くなる傾向が見られ、大橋架橋工事最盛期の平成 23 年度は、特にその傾向が顕著でありました。しかしながら、翌平成 24 年度からは飛翔高度が下がってきており、平成 25 年度(速報値)には、さらにその傾向が強くなっていることから、大橋建設中、高度を上げ飛翔していた鳥類が、その後の環境に徐々に慣れ、元の飛翔高度に戻りつつあるものと推測しています。</p>
2	4章 (鳥類)	<p>エリア 4 (住吉干潟) に飛来するシギ・チドリ科の個体数が激減している。これらは阿波しらすぎ大橋と吉野川大橋とで囲まれたエリア 4 が両橋を通過する車両の走行に伴う振動、風切音、エンジン音などに恐怖感を受け飛来できないためである。</p>	<p>エリア 4 (住吉干潟) の確認個体数は、年度によってばらつきはあるが、減少傾向は見られず、年次変動の一環であると考えております。</p> <p>また、近年エリア 1 での確認個体数が多い傾向にありますが、これは干潟面積の増加や採餌行動が見られることなどから、より快適な場所に鳥が移動しているためではないかと推測しております。</p>
3	4章 (鳥類)	<p>ホウロクシギについて、ヤマトオサガニが多いエリア 4 であまり見かけなくなり、餌が少ないエリア 1 にいる。</p>	<p>エリア 1 は干潟面積の増加が著しく、採餌行動も見られることから、より快適な場所に移動しているのではないかと考えています。</p>
4	4章 (鳥類)	<p>阿波しらすぎ大橋建設工事の前半までの右岸側は、シギ・チドリの行き来が頻繁にあり、エリア 4 の利用割合も高いが、右岸側の工事が進行するにつれて、エリア 4 の利用率は激減している。</p> <p>このことは、明らかに大橋建設の影響があることを示している。</p>	<p>エリア 4 (住吉干潟) の確認個体数は、年度によってばらつきがありますが、減少傾向はみられず、年次変動の一環であると考えております。</p>
5	4章 (鳥類)	<p>平成 23 年度までのシギ・チドリ類の飛翔経路の経年変化を見ると、右岸側エリア (イ) の通過数が明らかに多かったものが、架橋開始し、完成すると激減している。これらのことから大橋建設の影響があることは明らかである。</p>	<p>飛翔経路については、調査開始以降の各年度の観測結果より、エリア (イ) の通過数が多い傾向にあり、変化は見られません。</p>
6	4章 (鳥類)	<p>なぜ、平成 24 年度はシギ・チドリ類の飛翔経路の調査をしなかったのか理由を記載して欲しい。</p>	<p>飛翔経路調査については、平成 24 年度以降も実施しております。</p>